

“大井手の楽校”とは？



熊本大学 田中尚人准教授

もっと大井手を知ってもらうために

大井手は、白川の水を渡鹿堰から取水し、中央区内の託麻原校区・大江校区・白川校区を流れる農業用水路です。およそ400年前に加藤清正によって造られました。大井手は現在も役割を変えずに使用されています。また、市内中心部の住宅街の中にある水辺と緑は、地元の方々によって大切に守られています。

そこで、熊本市中央区のまちづくり事業『井手の魅力再発見事業』の一環として、「大井手をもっと良くしていくために、また多くの人々に知ってもらうためには何ができるのか」をみんなで考え、アイデアを出し合うことを目的とした『大井手の楽校』が発足しました。

第1回 平成27年 8月31日(月)

第2回 平成27年 10月27日(火)

第3回 平成27年 11月28日(土)

第4回 平成27年 12月6日(日)

第5回 平成28年 1月29日(金)
シンポジウム

大井手について
知る



何が
できるか？
考える



アイデアを
出す



ワークショップで毎回行われた“ワールドカフェ方式”の議論スタイル。まるでカフェで雑談するような感覚で、自由に、気楽に意見交換ができます。初めは戸惑う参加者も次第に慣れて和やかな雰囲気になりました。

大井手でやってみたいことは？

魅力を再発見したワークショップ

平成27年度の『大井手の楽校』では計4回のワークショップを行いました。第1回では大井手の良い点・悪い点を考え、第2回では大井手沿いの試歩を開催。第3回では『里川歩き』と題し、参加者・スタッフ総勢約70名で、「大井手の謎」をテーマに大井手沿いの里川歩きを実施しました。江南病院近くでは、子どもたちが思い思いの絵を描いて作った舟を大井手に浮かべる遊びで、おおいに盛り上がりしました。第4回では『里川歩き』を振り返り、参加者全員で“大井手の謎マップ”を作成。その後「大井手でやってみたいこと」をテーマに、さまざまな意見を出し合いました。

④ みずあかり
ライトアップ

④ 大井手バンチャー
カーで井手下り

④ 歴史の看板設置
④ 大井手マルシェ

④ 清掃イベント
その後→水辺で乾杯！

大井手を
歩く！



何かに
気づく



井手の魅力
再発見！



普段は“大井手に舟を流す”ということはありません。農業用水路なのでさまざまな規制があります。この日は特別に許可を得て、また流した舟はイベント終了後に全て回収するなどのルールを守って行いました。